取扱説明書

膝用ＣＰＭ パフォーマ

Performa

CPM-3000

（医療機器承認番号 21900BZX00208000）

EMC 適合

✱このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

✱正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただくとともに本製品を使用する方には、必要により安全教育を実施してください。

✱「取扱説明書」は

・１部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。

・１部を保存用として、大切に保管してください。

SAKAImed

03-036④KZ

安全上のご注意

本製品を安全に正しくご使用していただくために、
各注意事項を読んで必ずお守りください。

表示の意味は次のようになっています。

⚠ **危険** ・・・ 取り扱いを誤ると、
死亡または重傷を負うことに至るもの

⚠ **警告** ・・・ 取り扱いを誤ると、
死亡または重傷を負う可能性が想定されるもの

⚠ **注意** ・・・ 取り扱いを誤ると、
傷害または物的損害の発生が想定されるもの

下記の注意事項は、本文からの抜粋です。

⚠ 危険
可燃性の麻酔薬とともに使用しないでください。いっしょに使用すると爆発の危険があります。
⚠ 注意
1．必ず付属の電源コードを使用してください。それ以外のコードを使用すると故障や事故の恐れがあります。 **2．使用中に電源コードがもつれないようにしてください。もつれるとコードの破損の恐れがあります。** **3．アースなしコンセントは使用しないでください。漏電した場合、感電する恐れがあります。** **4．ハンドコントローラーは、必ずロックをして使用者に渡してください。していないと、使用者が操作をしているときに誤って設定が変わってしまい事故につながる恐れがあります。** **5．ハンドコントローラーは、運動開始前に必ず使用者に渡してください。痛みなどを感じたときに、すぐに自分で停止することができます。**

目 次

１．用途及び特長 2
２．構成及び名称 2
３．ご使用になる前に 4
３－１ 電源について 4
３－２ ヒューズの交換について 4
３－３ 外観の点検 4
３－４ 安全性の確保 4
３－５ 装置のセット 5
４．操作方法 7
４－１ 始動の準備 7
４－２ ハンドコントローラーのロック方法 7
４－３ スタート/ストップ/反転操作 8
４－４ 各パラメーターの設定範囲 8
４－５ タイマーのリセット方法 9
４－６ タイマー残り時間の表示 9
４－７ 使用者の許容値の決め方(運動開始時)―マニュアルモード― 10
４－８ 使用者の許容値の決め方(運動中)―バイパスモード― 11
４－９ 累積使用時間 11
５．パッド装着方法 12
６．オプション品 15
７．お手入れの仕方 15
８．機器の保守・点検 16
９．このようなときには 17
10．保証とアフターサービス..... 18
11．仕様 19
12．医用電気機器の使用上(安全及び危険防止)の注意事項 . 20

１．用途及び特長

● 用途

本製品は、股関節及び膝関節の伸展-屈曲運動を行なうための CPM 装置です。

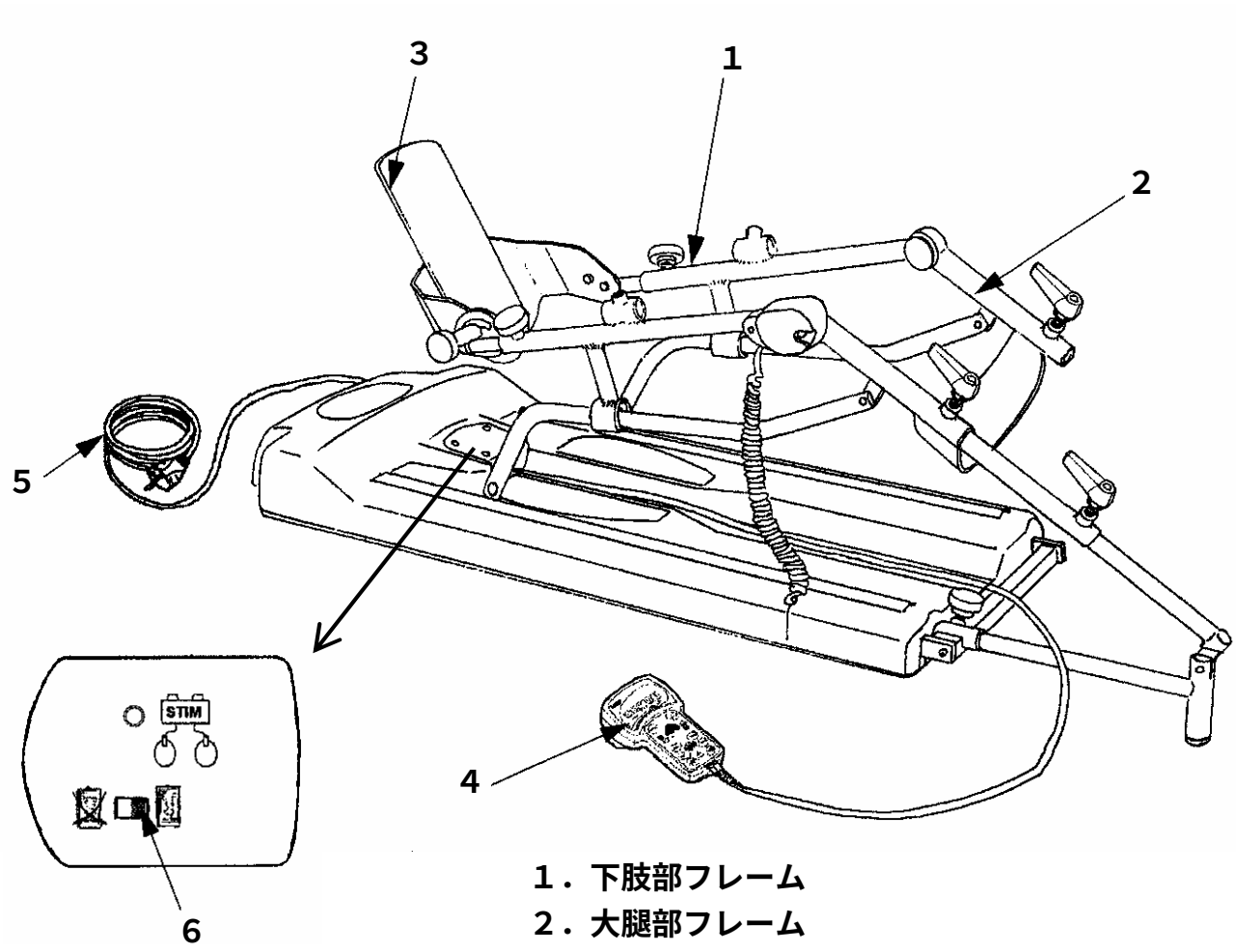
● 特長

・アナトミカル・ポイントによる最適ポジションの設定ができます。
・幅広い適用身長(1.12m～2.06m)
・負荷強度、休止時間の設定ができます。

２．構成及び名称

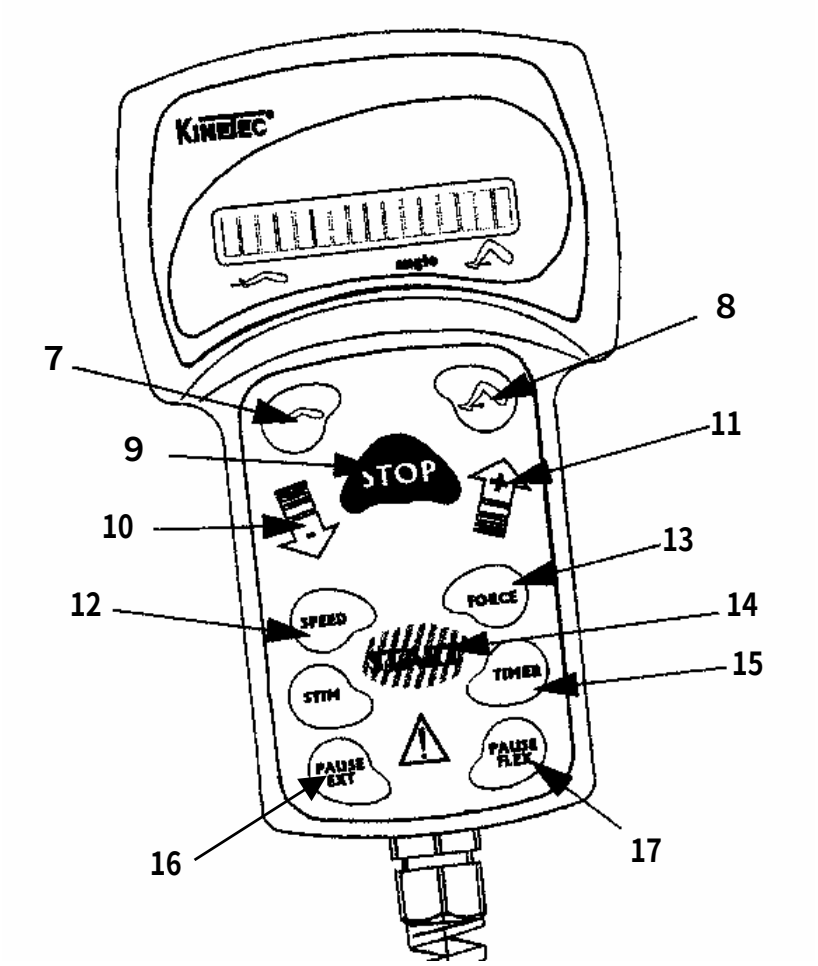
パフォーマ　CPM-3000

● 本体

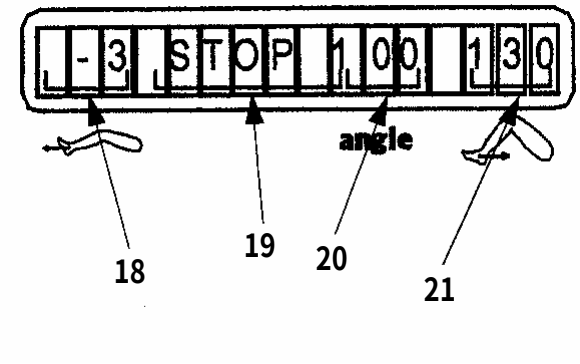


１．下肢部フレーム
２．大腿部フレーム
３．フットプレート
４．ハンドコントローラー
５．電源コード
６．ハンドコントローラースイッチ

● ハンドコントローラー



7.伸展角度設定ボタン
8.屈曲角度設定ボタン
9.ストップボタン
10.－ボタン
11.＋ボタン
12.スピード設定ボタン
13.フォース設定ボタン
14.スタートボタン
15.タイマー設定ボタン
16.最大伸展休止時間設定ボタン
17.最大屈伸休止時間設定ボタン



18.伸展角度
19.メッセージ
20.実際の運動角度
21.屈曲角度

３．ご使用になる前に

３－１ 電源について

本製品は、100V±5%の範囲内でご使用ください。範囲外の場合には、機器の故障及び誤動作の原因となります。

⚠ 注意	**必ず付属の電源コードを使用** それ以外のコードを使用すると故障や事故の恐れがあります。
	使用中に電源コードが、もつれないように もつれるとコード破損の恐れがあります。

３－２ ヒューズの交換について

ヒューズ(31)を交換する際は、弊社営業所までご連絡ください。

３－３ 外観の点検

ご使用前に本製品の外観を点検し、部品が破損しているなど、日頃お使いになられていたときとは違う異常を感じましたら、本製品を使用せずに、電源を切って最寄りの営業所にご連絡ください。

破損、異常を感じたままのご使用は、危険ですから絶対におやめください。

３－４ 安全性の確保

- 必ず医師の指導の下でご使用ください。
- 使用者にハンドコントローラー(4)の機能を十分理解させてから使用するようにしてください。
- 本製品には、リバース機能（過負荷時に運動方向を反転する機能）がついていますが、使用者の状態に合わせた可動域，速度，治療時間の設定を行うようにしてください。

⚠ 危険	**可燃性の麻酔薬とともに使用しない** いっしょに使用すると爆発の危険があります。

３－５ 装置のセット

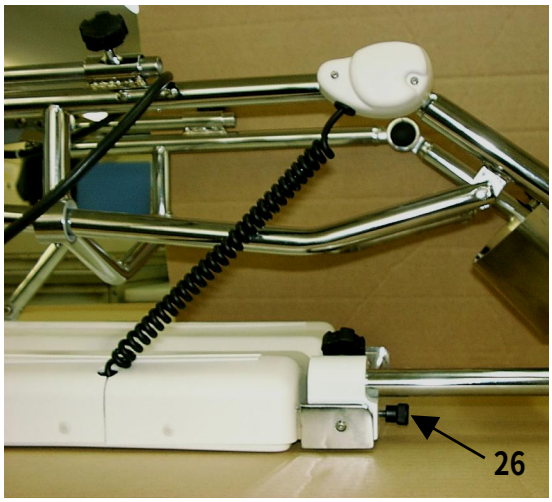
● スライド軸

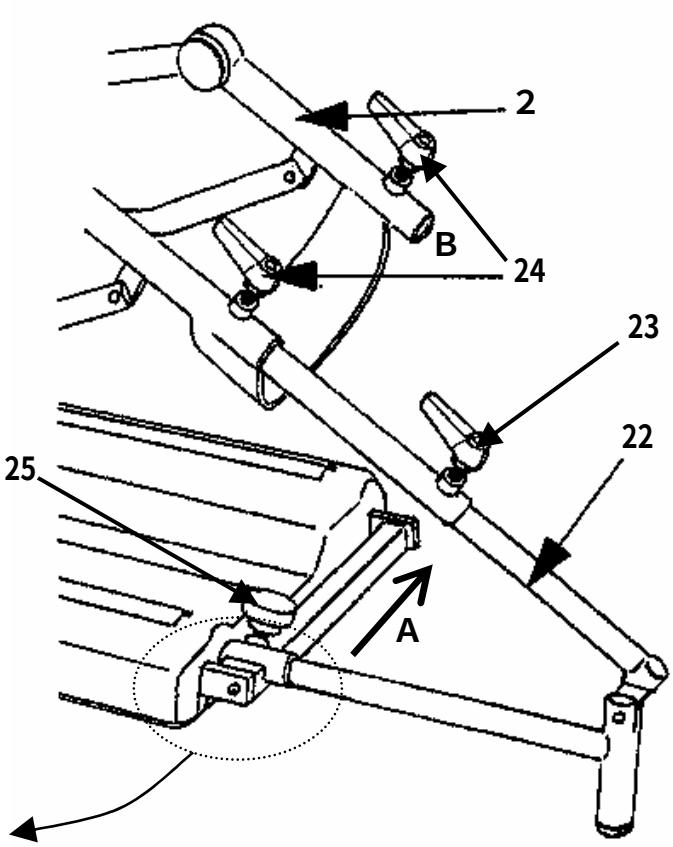
スライド軸(22)は、必ず運動する足の外側に取り付けます。

下図は、左足の運動するときのセットです。右足の運動するときは、右側にスライドして、フレームの右側に差し込みます。

1) 軸固定ノブ(25)をゆるめ、収納されているスライド軸(22)を伸ばし、ノブを締めます。
2) スライド固定ノブ(26)をゆるめ、スライド軸(22)を運動する足側にスライドさせ、ノブを締めます。
   ・左足の運動：左端にスライド(下図の位置)
   ・右足の運動：右端にスライド（Ａの位置）
3) グリップ(23,24)をゆるめ、スライド軸(22)を運動する足側の大腿部フレーム(2)に差し込み、グリップ(23,24)を締めます。
   ・左足の運動：フレームの左のパイプに差し込む(下図の位置)
   ・右足の運動：フレームの右のパイプに差し込む（Ｂの位置）

参考 グリップ(23,24)が体に当たるときは、グリップ先端部を上方向に引き上げると、グリップの向きを変えることができます。



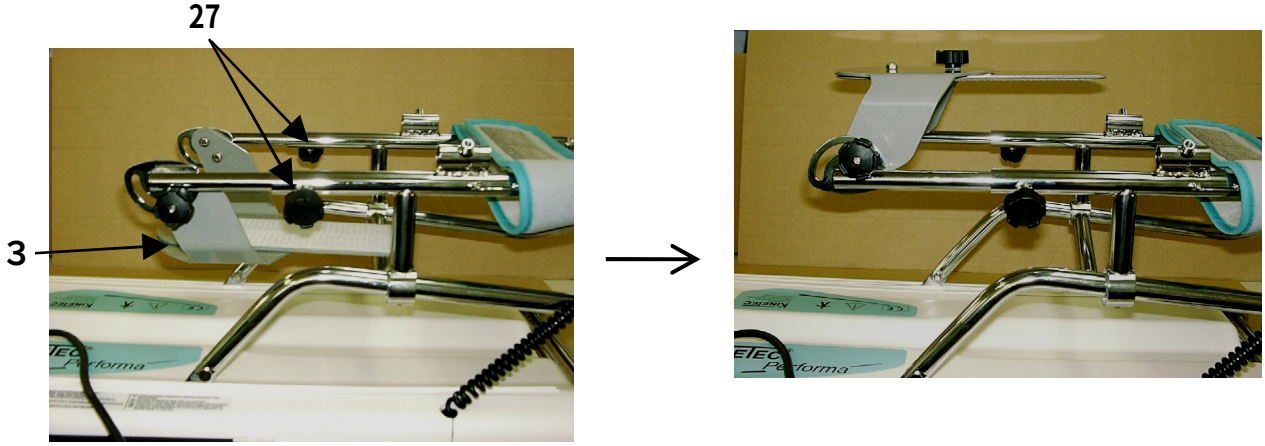


● フットプレート

出荷時はフットプレートが逆向きにセットされています。

1) フットプレート位置固定ノブ(27)をゆるめ、フットプレート(3)を引き抜きます。

2) フットプレートを下図のように逆向きにして差し込み、ノブ(27)を閉めます。



● ハンドコントローラー

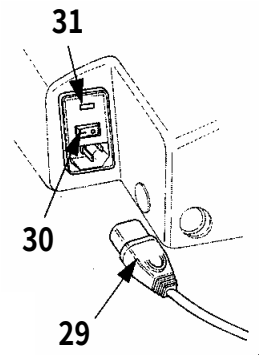
ハンドコントローラーを床などに落下させると故障の原因になるので、次の方法で落下を防止してください。

・機器を使用しない時は、ハンドコントローラーをフットプレートにのせてマジックテープで固定します。

・運動中はハンドコントローラーのコードについているクリップで使用者の衣服を挟んで使用します。

● パッド類の装着は、13 ページを参照してください。

４．操作方法



４－１ 始動の準備

1) 電源コード(29)を差込口に接続します。
2) 電源プラグをアース付コンセントに接続します。
3) 電源スイッチ(30)を入れると、ハンドコントローラーに『KINETIC PERFORMA』と表示されます。

⚠注意	**アースなしコンセントは使用しない** 漏電した場合、感電する恐れがあります。

４－２ ハンドコントローラーのロック方法

ロックされているときは動作設定が表示され、スタート、ストップ、反転のみ操作できます。

ロック方法は２つの方法があり、ハンドコントローラーによるロックよりハンドコントローラースイッチ(6)が優先します。

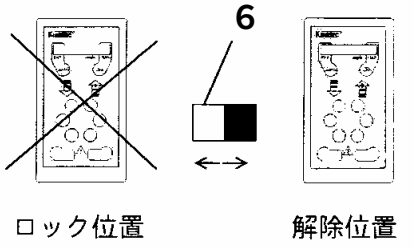
● **ハンドコントローラーによるロック**
(ハンドコントローラースイッチが解除位置のとき)

ハンドコントローラーの「PAUSE EXT」(16)と「PAUSE FLEX」(17)のボタンを同時に押すと『LOCK』と表示され、コントローラーがロックされます。
解除する場合は、同じボタンをもう一度同時に押すと『UNLOCK』と表示され、ロックが解除されます。

参考 本体の電源を入れたときは、ハンドコントローラーは常に「UNLOCK」の状態です。

● **スイッチによるロック**

ハンドコントローラースイッチ(6)が
左側はロック、右側はロック解除になります。



⚠注意	**ハンドコントローラーを使用者に渡す時は、必ずロックした状態で** ロックをしていないと、使用者が操作をしているとき、誤って設定が変わってしまい事故につながる恐れがあります。

参考　スイッチとハンドコントローラーによるロックを併せて二重ロックをかけることができます。ロックは、ハンドコントローラースイッチ(6)から解除してください。

４－３ スタート/ストップ/反転操作

1) スタートボタン(14)を押すと動作を開始し、表示部に『RUN』と表示されます。
2) ストップボタン(9)を押すと動作を停止し、表示部に『STOP』と表示されます。
3) 再びスタートボタンを押すと、反転して動作を開始し、表示部に『RUN』と表示されます。

⚠ 注意	**ハンドコントローラーは、運動開始前に必ず使用者に渡す** 痛みなどを感じたときに、すぐに自分で停止することができます。

４－４ 各パラメーターの設定範囲

それぞれの数値は、操作ボタンを押した後に「＋」ボタン(11)や「－」ボタン(10)で設定します。

	操作ボタン	設定範囲
伸展角度	(6)	-3°～　125°
屈曲角度	(7)	2°～　130°
スピード	(11)	1　～　7
フォース	(12)	1　～　6
最大伸展休止時間	(16)	0　～　900 秒（15 分）
最大屈曲休止時間	(17)	0　～　900 秒（15 分）
タイマー	(15)	0　～　24 時間 00 分 （0 ～ 1 時間　5 分単位 1 ～24 時間　15 分単位）

重要　**パラメーターを設定・変更する場合は、「UNLOCK」の状態で行います。**

ご注意　フォースレベルが低いと最大伸展休止時間や最大屈曲休止時間を設定しても休止しないことがあります。

参考

● スピードレベルの詳細　　単位(角度／分)

大腿部の長さ	レベル							レベル毎のアップ値
	1	2	3	4	5	6	7	
最低：26 ㎝	65°	118°	171°	224°	278°	331°	385°	約 53°／分毎
中間：38 ㎝	40°	69°	98°	127°	156°	185°	215°	約 29°／分毎
最大：50 ㎝	35°	59°	83°	107°	131°	155°	180°	約 24°／分毎

● フォースレベルの詳細　　単位(kg)

レベル						レベル毎のアップ値
1	2	3	4	5	6	
25	28.4	31.8	35.2	38.6	42	3.4kg 毎

⚠注意　**パラメータ設定後、装置の動きを目で確認**

必ず装着前に確認してください。動きに異常がある場合けがをする恐れがあります。

４－５ タイマーのリセット方法

1) タイマーを設定した運動が終了すると、ハンドコントローラー(4)には、『TIMER 00H00MIN』と表示されます。(そのまま時間が経つと『0　STOP　 50　50』のように通常の表示に戻ります)
2) 「UNLOCK」の状態にしてから、タイマー設定ボタン(15)を押します。
3)「－」ボタン(10)を押し続けると『NO　TIMER』の表示になりリセットされます。

重要　**タイマーを設定した運動が終了したら「UNLOCK」の状態にして、タイマーをリセット(連続運動) または 再設定(タイマー設定運動)しないと機器は作動しません。運動を再開する前に、タイマーボタンを押して設定を確認してください。**

参考　電源スイッチ(30)を入れなおすとタイマーはリセットされます。

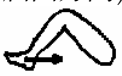
４－６ タイマー残り時間の表示

運動中にタイマー設定ボタン(15)を押すと残り時間が表示されます。その状態で「＋」ボタン(11)や「－」ボタン(10)を押すと設定時間を変更できます。

４－７ 使用者の許容値の決め方(運動開始時)―マニュアルモード―

マニュアルモードは、CPM 運動を開始するに当たって、使用者の許容値をテストしながら設定するために使用します。

機器に使用者を固定してから、下記のように操作します。

	操作	表示	備考
最初に 機器の電源を ON にします。	I	0 STOP 15 100	ハンドコントローラーがロックされていないことを確認してください。(８ページ参照)
機器が停止の状態で マニュアルモードにします。	(伸展方向) － または (屈曲方向) ＋	0 MANUAL 15 100	ボタンを３秒以上押し続けると、『MANUAL』と３秒間表示され、マニュアルモードになります。
※ 許容値を探します。		0 MANUAL 15 100 ↓ 0 MANUAL 50 100	表示されている間にボタンを押し続けると、押した方向に機器が動きます。 許容値に達したらボタンを離します。
新たな許容値を設定します。 (許容値を50°にする場合)	(伸展方向) または (屈曲方向) 	50MANUAL 50 100 (伸展許容値 50°) または 0 MANUAL 50 50 (屈曲許容値 50°)	表示されている間に設定したいボタンを押すと、 伸展許容値が設定されます。 または 屈曲許容値が設定されます。
もう一方の許容値を設定するときは、※からの操作を繰り返します。			
新たに設定された数値で、機器を作動させます。	start	0 RUN 45 50	数値は、そのときの角度を表示します。

表示の数値は例です。

４－８ 使用者の許容値の決め方(運動中)―バイパスモード―

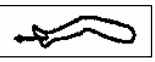
バイパスモードは、運動中に許容値を拡張する時に使用します。
機器が**作動中**に操作してください。

- **屈曲許容値を拡張する場合**

	操作	表示	備考
最初に 機器を作動させます。	start	30 RUN 45 90	ハンドコントローラーがロックされていないことを確認してください。 （８ページ参照）
バイパスモードにします。		30 **BYPASS** 45 90	屈曲方向に移動しているときに「＋」ボタンを３秒以上押し続けると『BYPASS』と３秒間表示され、バイパスモードになります。
屈曲許容値を変更します。	＋	30 BYPASS 45 90 ↓ 30 BYPASS **100** 90	そのまま「＋」ボタンを押し続け、屈曲許容値を超えるのを待ちます。 新たな許容値に達したらボタンを離します。
新たな許容値を設定します。		30 RUN 100 **100**	表示されている間に屈曲角度設定ボタンを押すと、屈曲許容値が設定されます。
新たな許容値を設定したまま、機器の作動を続けます。		30 RUN 95 100	数値は、そのときの角度を表示します。

表示の数値は例です。

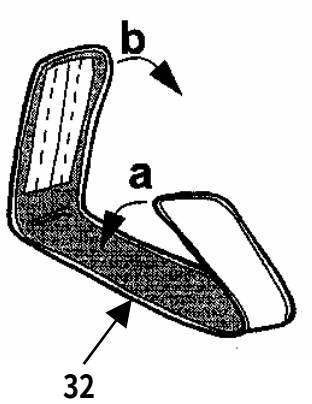
- **伸展許容値を拡張する場合**

伸展方向に移動しているときに「－」ボタンと伸展角度設定ボタン  で同様の操作をします。

４－９ 累積使用時間

- 運動停止中に伸展角度設定ボタン(7)と屈曲角度設定ボタン(8)を同時に押すと、『R.T＝ *H **MIN』と累積使用時間が表示されます。
- 累積使用時間を表示後に『RESET???』と『PRESS START』が交互に表示されているときに START ボタン(14)を２回押すと、カウンターがリセットされます。

５．パッド装着方法



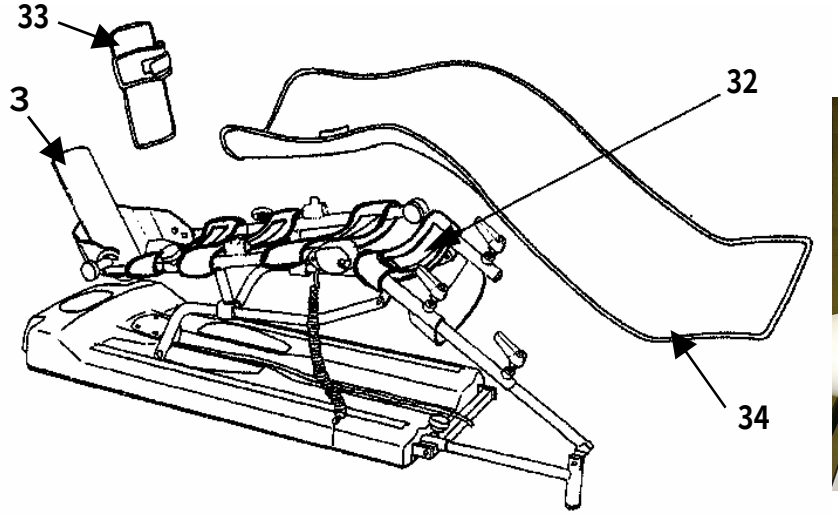
装着用パッドは、下記のセット構成になっています。

－　固定ベルト(32)　　：　４本
－　フットプレート用パッド(33)　　：　１個
－　下肢用マット(34)　　：　１枚

使用者への装着方法

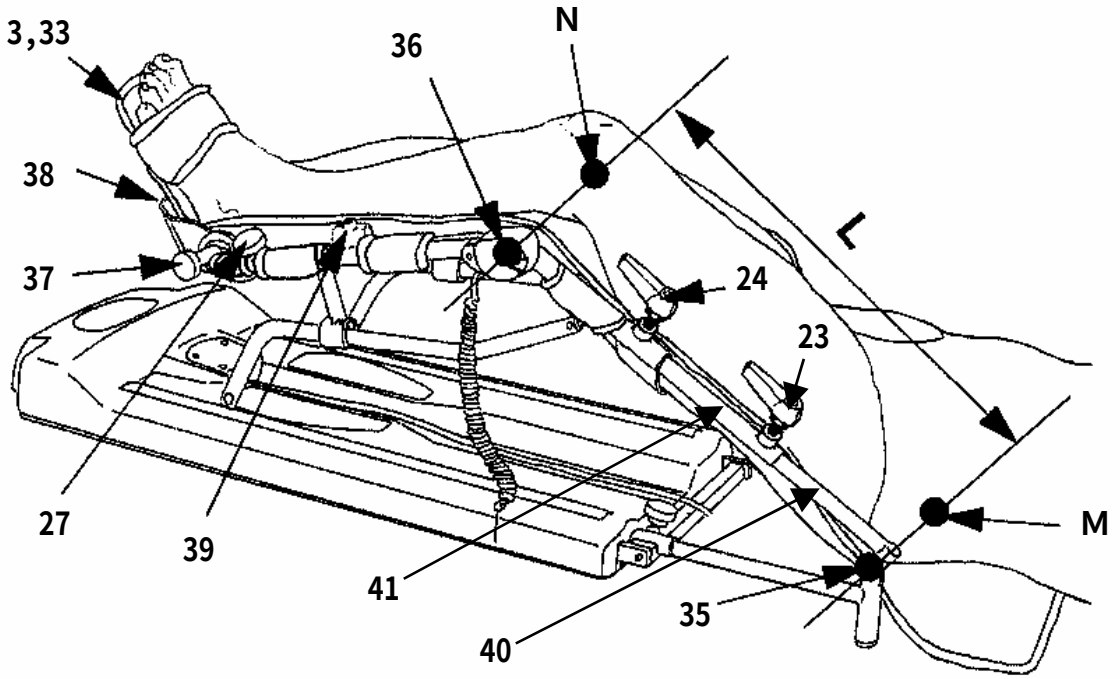
①本体をしっかりした台または床に置きます。

②固定ベルト(32)は、大腿部と下肢部に２～３箇所装着します。
マット接着部が見えるように a→b の順で、ゆるみをつけて装着します。右下図のようにａとｂを半分～1/3 くらい重ねて、マジックテープを止めます。



⚠注意	**固定ベルト(32)は、ゆるみをつけて装着する** いっぱいに張って装着すると、膝の軸がずれて正しい運動ができません。

③フットプレート用パッド(33)をフットプレート(3)に取り付けます。
④下肢用マット(34)のタオル地側を表にして、固定ベルトに接着します。
⑤グリップ(23)をゆるめ、黒スケール部(40)は最長にしてグリップを締めます。
⑥グリップ(24)をゆるめ、白スケール部(41)は最短にしてグリップは締めます。



⑦使用者の大腿部の長さ(L)を測ります。

・大腿部の長さ(L)が 26〜40㎝ のとき

グリップ(23)をゆるめ、黒スケール部(40)の目盛りを大腿部の長さ(L)に合わせ、グリップを締めます。

・大腿部の長さ(L)が 40〜50㎝ のとき

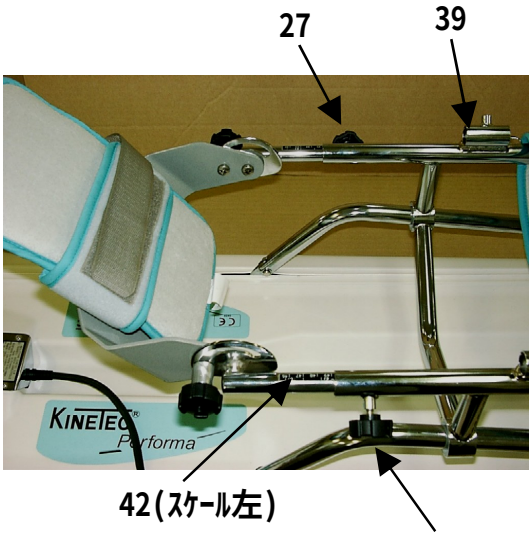
グリップ(24)をゆるめ、白スケール部(41)の目盛りを大腿部の長さ(L)に合わせ、グリップを締めます。

⑧使用者を寝かせ、下肢用マット(34)に脚部を乗せます。
⑨使用者の膝の軸(N)を本体の回転軸(36)に、股関節の軸(M)を回転軸(35)に合わせてください。

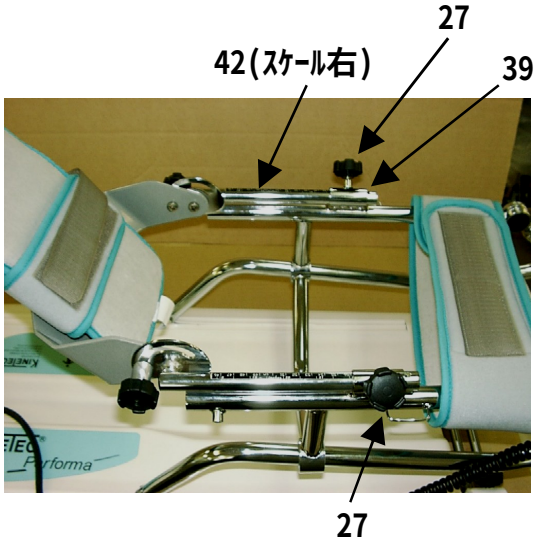
⚠ **注意**	**必ず使用者の回転軸を本体の回転軸に合わせる** 使用者と本体の回転軸が合っていないと、正しい運動ができません。

⑩下肢部を調節します。

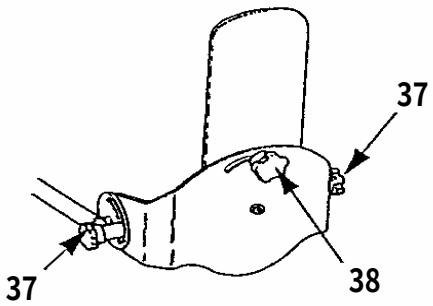
- **下肢部の長さが 43～58㎝ のとき**
  ノブ(27)をゆるめ、下肢スケール部(42)左の目盛りを下肢部の長さに合わせ、ノブを締めます。



- **下肢部の長さが 32～44㎝ のとき**
  ノブ(27)をゆるめて外します。
  下肢スケール部(42)を引き抜き、チューブ(39)に差し替えます。
  下肢スケール部(42)右の目盛りを下肢部の長さに合わせ、外したノブ(27)で締めます。

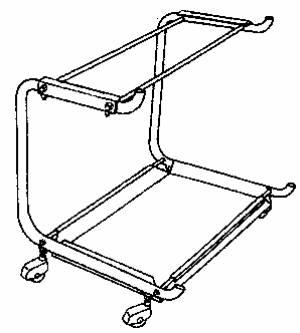


⑪ノブ(37)で、足部の底屈(0°～40°)または、背屈(0°～30°)の調整をします。
⑫ノブ(38)で、足部の内転(0°～30°)または、外転(0°～30°)の調整をします。



⚠注意	**装着後は、すべてのノブやグリップが確実に締まっていることを確認** 締っていないと、正しい運動ができません。また、事故の原因になります。
	装着時の調整は、必ず医師や指導者の指示に従い適切に行う 調整が不適切だと思わぬけがや事故の恐れがあります。

６．オプション品



● 膝用 CPM 用カート：CPM-CART

カートの上段に CPM 本体、下段には付属の下肢用マットや固定ベルトを載せると、病室間の移動や保管に便利です。

● 固定ベルト(ロングサイズ)

本体フレームに巻きつけて、より強固に固定できるロングサイズのベルトです。

７．お手入れの仕方

- 電源スイッチを OFF にし、電源コードをコンセントから抜きます。
- プラスチックカバー，金属部品の消毒は、アルコールを使用してください。
- 衛生上、下肢用マットは使用者ごとに交換してください。下肢用マットを消毒する場合(必要時)約 134℃で約 18 分間消毒します。固定ベルト及びフットプレート用パッドは塩素系漂白剤入りのぬるま湯で洗ってください。

８．機器の保守・点検

- 本製品については、機器の管理者の方が以下の点検項目にもとづき、必ず始業点検（日常の製品使用前）を実施してください。
- 長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。
- 点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。（なお清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします）

● 始業点検項目

区分	点検内容	点検方法
外観	周囲の障害物の有無	目視
	本体の安定性	水平な面に置かれ、安定していることを確認
	部品のはずれ・がたつき、 取付ねじの緩み・脱落	目視 または、スパナ等による確認
	部品の汚れ、損傷など	目視
機能	各調節部の固定	確実に固定できることを確認
	ハンドコントローラーの動作 (電源コードを接続して)	ボタン機能や表示が正常であること、ロックができることを確認
	本体の動作	動きがスムースで異音などないことを確認

● 保守

- 電源を ON にした際、『SERVICE!!』というメッセージが表示された場合は保守時期に達したことを示します。約 2000 時間が経過すると表示されます。
  スタートボタンを押すと引き続き使用することはできますが、必ず弊社営業所に連絡を取って保守作業を実施してください。

９．このようなときには

- 電源コードを接続し、スイッチを ON にしても表示部に何も表示されない場合：
  ①電源に電気がきているか確認してください。
  ②ヒューズ(31)が切れていないか確認してください。（５ページ参照）
- スイッチを ON にした後、装置が作動せず表示部に『50 STOP 25 115』と表示される場合はもう一度スタートボタンを押してください。
  以上の対応をしても問題が解決しない場合及び、下記①～③の症状が発生した場合は、弊社営業所に連絡してください。
  ①『SERVICE D1』　　：測定角度の異常
  ②『SERVICE D2』　　：運動時の異常
  ③『SERVICE D3』　　：モーター方向の異常
- 『PUSH STOP/START』と表示された場合：大腿部フレーム(2)からスライド軸(22)が外れた状態で作動されています。
  ①スタートボタン(14)またはストップボタン(9)を押します。
  ②通常の表示に戻ったら電源スイッチ(30)を切り、大腿部フレームとスライド軸をつなぎます。
  ③電源スイッチ(30)を入れ、運動を続けます。

10．保証とアフターサービス

● 保証書について

保証書は必ずお受け取りください。保証書がありませんと保証期間中でも代金を請求させていただく場合がありますので、よく読んで大切に保管してください。

保証期間につきましては、正常な状態でご使用いただきながら故障した場合１年間です。詳しくは保証書をご覧ください。

● 修理を依頼される場合

- 修理を依頼されるときは、下記のことをお知らせください。
  - 機種名
  - お買い上げ年月日
  - 故障状況(できるだけ詳細に)
  - 住所，氏名，電話番号
- メーカーより指示のあるとき以外は、決して開けたり分解しないでください。

● 耐用期間

10 年：保守点検などの当社推奨環境で使用された場合

● 損耗品（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

- 正常な使用において、交換の目安が**約２年**のもの。

  下肢用マット / 固定ベルト / フットプレート用パッド

点検時期が来ましたら弊社営業所までご用命ください。点検して必要により有償交換いたします。

● 保守部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

11．仕様

外形寸法	1090(L) × 330(W) × 350(H) ㎜
質　量	約 15kg
可動域設定範囲	－3°～130°
フットプレート角度	底 屈：　0°～40°
	背 屈：　0°～30°
	内外転：各0°～30°
速　度	大腿部中間時、毎分 40°～215°(7 段階)
タイマー	24 時間
休止時間	0～900 秒
フォース	25～42kg（6 段階）
角度表示	デジタル表示（膝関節）
適用身長	112～206 ㎝
電　源	単相 100V 50/60Hz 15A
電源入力	50VA
保護の形式と程度	クラスⅠ機器、B 形装着部
保　管	温度：－40℃～70℃　　湿度：　90%まで
作動環境	室温：10℃～40℃　湿度：80%まで
機能構成	アナトミカルポジション機能、操作ロック機能、 イニシャルチェック機能、メンテナンスアラーム
付属品	固定ベルト，フットプレート用パッド，下肢用マット

■ 本製品は EMC(電磁両立性)規格 IEC 60601-1-2:2001（CISPR11,Group1,ClassB）に適合しています。

注）都合により予告なく仕様の変更を行う場合があります。

12．医用電気機器の使用上(安全及び危険防止)の注意事項

●次の注意事項を熟読して、機器を正しく使ってください。

1.機器を取り扱うには､その機器の取扱法､操作を十分に熟知してから使用してください。

2.機器の設置と保管する場所

1) 水のかからない場所に設置，保管してください。
2) 気圧，温度，湿度，風通し，日光に留意し、ほこり，塩分，イオウ分などを含んだ空気などにより悪影響の生ずる恐れのない場所に設置，保管してください。
3) 傾斜，振動，衝撃(運搬時を含む)など安定状態に注意してください。
4) 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置，保管しないでください。
5) 電源の電圧，周波数，消費電力に注意して設置してください。
6) 電池電源の場合には、放電状態，極性などを確認してください。
7) 機器を設置するときには、アースを正しく確実に接続してください。
8) コンピュータ等に代表される電子回路の機器は、高周波や電磁波などの電気的雑音によって誤作動が起きることがあり、電気的雑音は電源ラインからの混入が多いので、電源コンセントは高周波、電磁波等を発生する機器（マイクロウェーブ等）と同一のラインを使用しないでください。
9) 電気的雑音は電波として空中から影響を受けることがあるので、高周波、電磁波等を発生する機器（マイクロウェーブ等）の近く及び静電気の発生し易い場所には設置、保管しないでください。

3.機器を使用する前の準備

1) 機器が正常で安定に作動することを確認してください。
2) アース線，コード類の接続が正確で、また完全であることを確認してください。
3) 他の機器を併用する場合は、専門家の指示に従ってください。
4) 使用者に直接接続する外部回路が正常であることを確認してください。
5) 電気的雑音は電波として空中から影響することがあるので、近くに高周波、電磁波等を発生する機器（マイクロウェーブ等）が無いことを確認してください。
6) 電子回路の機器は静電気により誤作動が起こることがあり、又、身体には静電気が帯電しやすいので、近くの金属（机・ドアのノブ等）にふれて身体に静電気が帯電していない状態で操作してください。
7) 電池電源を確認してください。

4.機器の使用中の注意

1) 診断，治療に必要な時間，量は指定以上にならないように注意してください。
2) 機器及び使用者に異常がないことを絶えず監視し、異常が発見された場合は、直ちに使用者が安全であるように機器の作動を止めるなどの適切な措置を講じてください。
3) 機器及び他の電気器具などに使用者が触れることのないように、注意してください。

5.機器の使用後の注意

1) 定められた手順により操作スイッチ、ダイヤルなどを使用前の状態に戻したのち、電源スイッチを切ってください。
2) コード類を取りはずすときは、コードを持って引抜いたりしないで、正しくプラグを持って取りはずしてください。
3) 機器は次回の使用に支障のないように、必ず清浄にしておいてください。

6.故障したときは適切な指示をして、専門家にご連絡ください。

7.機器及び部品は必ず点検を行ってください。

8.機器は絶対に改造しないでください。